

放射線部・高気圧酸素治療センター

1. 看護単位の概要

業務エリア CT、透視室、アンギオ室、MR、RI、放射線治療部、
高気圧酸素治療センター、救急外来（時間外の緊急アンギオ）

2. 部署の特徴

1) 放射線部（放射線診断と放射線治療の2部門の検査・治療における看護実践）

- ・一般撮影：撮影室は9室。8番撮影室で月曜日・金曜日に乳腺外科のマンモグラフィー、マンモトーム併用の生検検査を実施する。
- ・CT検査：造影剤投与のための確実な末梢ライン確保と、投与後のアナフィラキシー症状に対する急変時対応などを行い、安心と安全、そしてスムーズに実施出来るよう環境を整える。また、検査後は、造影剤排出のための飲水説明、遅発性の副作用症状に対する患者指導を実施している。
- ・透視室：造影剤を使用し透視を用いて診断や処置を行う。また、カテーテル（CVC・PICC・UKカテーテル）などの留置も行われる。実施する各診療科の医師と協力して、患者の不安軽減に努めつつ、円滑に処置が進むよう介助する。
- ・アンギオ室：血管造影検査室は4室あり、それぞれの検査室で診断や治療が行われる。看護師は検査や治療時の患者の観察や処置を行い、患者の不安軽減に努め、検査・治療が安全・安楽に行われるよう介助している。
- ・MR検査：検査室内は強い磁場が常時発生しているため、金属の持ち込みがないか（体内金属を含む）入室前の金属チェックが重要となる。また、非常に狭い検査装置の中で、比較的長期間安静にしておく必要があるため、閉所恐怖症への対応や疼痛に対する安楽な体位保持を提案し、不安の軽減に努めている。
- ・RI検査：放射性同位元素を投与して様々な検査を行っている。放射線被曝に対して不安を抱く患者に対しては、安心して検査を受けてもらえるよう他職種と協同して適切な説明を行う。また、放射線同位元素を用いた有効な診断やさらに治療の開発のため、治験や臨床試験が増加している。今後は試験に参加される患者の看護実践も求められる。
- ・放射線治療：中央診療棟地下と中病棟地下を合わせて6室の治療室を有する。様々な治療目的に沿って、小児から高齢者まで幅広い患者とその家族に対して、治療開始に向けたオリエンテーションを実施している。治療計画通り決められた回数で治療が完遂できるよう、不安に対する支援や照射による副作用症状に対する継続看護と、主に皮膚ケアに関する患者教育および日常生活指導など実践している。

2) 高気圧酸素治療センター：

多人数用の治療装置を用いて大気圧より高い高気圧環境下での治療（減圧症、一酸化酸素中毒、突発性難聴、骨髄炎など）を行う。タンクに入室する特殊な治療のため不安除去に努める。高濃度酸素を用いるため、火災発生予防のため細心の注意を払い安全な治療が行えるようにしている。また、アスリート高気圧酸素治療外来も開設されている。